

## 事業実績報告書

事業の名称	ゼロソー「ピッチドロップ」 (動員: 129名)
日時	平成 29 年 5 月 20 日 (土) 14:00/19:00 平成 29 年 5 月 21 日 (日) 14:00
事業内容	<p>平成 28 年熊本地震から 1 年が経過し、表現者として震災に真っ向から向き合おうと作った演劇作品。一見固体のように見える物質が、長い年月をかけてゆっくりと滴る様子を観察するピッチドロップ実験が行なわれているとある大学の研究室が舞台。大きな地震がその地域を襲い、その後、めちゃくちゃになった大学の研究室の様子を見に来た学生が、頭部だけの女性を発見するところから物語は始まる。大震災を乗り越えて、頭部だけになっても生き残った女性は、その研究室の教授の妻。逆境にあっても底抜けに明るい頭だけの女性をとおして、多くの方に元気を届けたいと臨んだ作品でした。</p> <p>(アンケートより)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひたすら元気をいただきました。観劇中に色々自分のことも思い出しましたが、とりあえず流れに身を任せてゆっくり生きていこうと思いました。</li> <li>・ そうだったなあ、がたくさん。水の価値とか“こんなこと”とか“自分ばかり大丈夫で”とか地鳴りの音、私も嫌いで。忘れたいけど覚えていたい作品でした。</li> <li>・ 生きている限り絶望はないんだなと思いました。ホトリさんのように明るく生きていきたいと思います。</li> <li>・ 1 年前のことを思い出しながら見ました。今はもう普通の生活に自分は戻っていて記憶なんて一生残るものではないし、少しずつ忘れてしまうのだろうけど、忘れないようにしないといけないと思います。</li> <li>・ 地震についての記憶がよみがえった舞台でした。ネガティブな気持ちやポジティブな気持ちが交錯するような当時の感覚です。失ったものは確かにあるのだけれど、「前を見つめる」ことが大事なのでしょう。</li> <li>・ 辛くどうにもならない状況の中で明るく前向きに生きていくホトリさんの姿に勇気もらいました。また、人間の強さのようなものも感じました。地震などの死に近い状況下で人を支えるものが愛であることを感じ心が温くなりました。</li> <li>・ どんな形であれ自分にできることを探すこと、それが生きることなのかなと思いました。</li> <li>・ 頭だけ残って生きていくって、超極端な状況だけど、歳にとって体が衰えていった行末、とも言えなくもないなと思います。それでも一緒にいよう、それでも友達になろう、それでもあなたの役に立とう、なんて素敵すぎる。泣ける！ほがらかで色っぽくて大好きな作品でした。</li> </ul>
添付書類等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公演写真</li> <li>・ チラシ</li> <li>・ パンフレット</li> <li>・ 新聞記事</li> </ul>

## 収支決算書

団体名:ゼロソー

事業名:ピッチドロップ

### 【 収 入 】

項 目	金 額 (円)	内 訳
チケット収入	244,500	
助成金	100,000	熊本放送
助成金	50,000	熊本市駐車場公社
赤字補填	507,418	団体会計より
	-	
	-	
	-	
合 計	901,918	

### 【 支 出 】

項 目	金 額 (円)	内 訳
会場使用料	97,200	早川倉庫 5月18日～21日
稽古場代	171,000	3月～5月
大道具代	240,691	吉本美術、他
小道具代	38,728	頭部製作、他
照明代	150,000	松崎照明
衣装代	3,024	白衣
運搬費	17,070	レンタカー代
駐車場代	9,400	会場周辺駐車場代
郵送料	85,540	チラシ、ポスター発送
印刷費	30,448	チラシ、チケット、台本印刷、コピー
制作費	32,806	チケットシステム使用料、インク代、他
ケータリング代	26,011	
合 計	901,918	

ゼロソー「ピッチドロップ」記録写真



ゼロソー「ピッチドロップ」記録写真

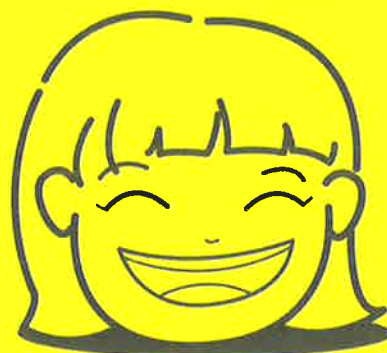


ゼロソー<sup>km</sup> 演劇公演

ピッチドロップ

# PitchDrop

© NeutralPhaseCompany 2017



## 研究室に、頭部だけの女。

WRITTEN & DIRECTED  
by  
MICHYUKI KAWANO

熊本

5/20 - 21

14:00 14:00  
19:00

早川倉庫

長崎

6/17 - 18

19:00 13:00  
18:00

宝町ポケットシアター

北九州

7/16 - 17

14:00 14:00  
19:00

枝光商店街アイアンシアター

主催：ゼロソー

企画：Sulcambas!

助成：熊本放送文化振興財団、熊本市駐車場公社

後援：熊本市教育委員会 熊日 NHK熊本放送局 RKK TKU KKT KAB FMK FM791 J:COM熊本

# 熊本地震を不条理劇で——劇団ゼロソー「ピッチドロップ」

## 誰も皆、疎外感を抱えた異邦人

劇評

まい。一見はげしく対立するの要件になりかねないというはずの、ヒューマニズムとテのだから、歴史の逆流はとどろリズムの二点をむすぶ線分 まるところをしらない。

熊本市を拠点に活動する劇団ゼロソーの新作公演「ピッチドロップ」(5月21日、熊本市の早川倉庫)を見た。劇団員自身も体感した熊本地震を、ドキュメンタリーではなく不条理劇で扱った作品。余震で眠れない中、ほんやり考えてたことが、今回のおはなしの発端と、作演出を務める河野ミチユキのあいさつ文にある。

地震後初めて、学生のミヤハラ(木村想)は大学の研究室に入る。誰もいないはずの部屋で、彼は女性の声を聞く。辺りを捜すと、ホトリ(松岡優子)と名乗る女性の頭だけが。あった。ホトリは教授の妻だ。混乱しながらもミヤハラは「コーヒー飲みたい!」と明るく叫ぶ彼女と話し始める。避難所にいたときの回想や、波打って穴だらけの道路を走る車の様子。それらは現実の体験とも重なっているのだらう。ただその中心に、頭部のみという異端の者がいる。しかも地震でその状態になってしまったらしい。観客



劇団ゼロソー公演「ピッチドロップ」より ©菊本明

◇17、18日は長崎市の宝町ポケットシアター、7月16、17日は北九州市の枝光本町商店街アイアンシアターで。上演時間など詳細はサルカンパ! =090(2397)2841。

もまたどう受けとめればよいのか戸惑い、ホトリが「手も足も出ない! 手も足もないけど」と飛ばすジョークを笑っているのか、分からない。だが、教授が書いたホトリの頭部観察日記の存在が分かり、ホトリの妹が登場して困惑を姉にぶつける後半になるにつれ、少しずつ、客席から笑いが出る。

こなれていないエピソードも見られたし、タイトルにもなっている物理学の「ピッチドロップ実験」の扱いもやや浮き気味に思われた。ただ、この混沌は地震後1年の現実でもあるのだらう。劇中、スティングの「インクリッシュマン・イン・ニューヨーク」とキリンジの「エイリアンス」のカバー音源が流れた。いず

死刑囚(68)川東京拘置所IIらと共謀し74年8月30日、東京都千代田区の三菱重工ビルを爆破し死者8人、重軽傷者165人を出したほか、74〜75年にアジア進出企業などに対する爆破事件を起こした。また74年8月、天皇特別列車を爆破するため東京都北区の鉄橋に手製爆弾を装着しようとするなどした。

れの曲も、自らをエイリアン(異邦人)と認識する者が、それでも取りまく世界と生を肯定しようとする姿勢が通じている。

ホトリの「頭部」は、最もあからさまな形で疎外感を示している。でも彼女が明るく振る舞うほどに、それを取りまく者も皆、大なり小なりの疎外感を抱えていることが見えてくる。そう思えたとき、ようやく笑いが出てくるのだ。舞台を見ている者も、何かしらの疎外感を抱えたエイリアンの一人だと。

長崎と北九州での巡回公演を控える。地震との距離感が異なる地では、観客はどんな疎外感を覚えるのだろうか。(大矢和世)

### 文化短信

▼トークセッション「朝倉雄三先生の同市総合市民センター。アサヒ朝倉雄三先生(朝倉宮)について考える九州歴史資料館の小田和利学芸員、姫野健太郎さんが意見を交わし、所長(予約不要)。問い合わせは日本歴史学会

### 風車

熊本地震では損壊した土蔵などから多くの近世文書が見つかり、熊本大学などに寄託され、整理と研究を待っている。

甲佐町にある知人の旧家からも江戸時代の文書が見つかった。存在は以前からわかっていたが、「うちの文書は大したことない」と、ほごりをかぶっていたらしい。読ませてもらったがなかなか興味をそそられた。

執筆したのは、熊本藩の槍術師範も務めた中小姓である。二十石五人扶持のだが、百石相当の待遇を受けているので、軽輩とは言えない。執筆者の養父は、五代藩主・宗孝の葬送にかかわっており、墓所である妙解院の警護にも当たった。

宗孝は教所を見間違えられて、江戸城で切り殺された。人違いのトンだは驚愕だったが、彼には男児がおら

### 相勤申候

## 文化

ファクス 092(711)6243  
メール bunka@nishinippon.co.jp

まっけないような気がする。なにしろ向こうはこつちが知っていること、気がついてないのだ。ようは瞬発力と、意外性だ。

いた。あんなに感動した  
 は、藤田氏の同  
 様、多くの鑑  
 賞した映画化を美  
 ば、桐島、部活  
 てよ、なぞで知  
 川大八監督だ。  
 剛り友、オリジ  
 の加え方が本当  
 愛情を持って人  
 をすくみ取って  
 願ふ。吉田監督  
 向けるまなこし  
 を振り、「よい  
 じむだにも、  
 ばを撮んでほし  
 び掛けた。  
 頭の問題を扱う  
 語は、最終にか  
 の感情や家族の  
 だ、最近の問題  
 てい。脚本は  
 の家族が、他  
 運命されいく  
 市人という存在  
 うつながらてい  
 ぶらしい家族を  
 たらしく人間く  
 二と直とるを  
 渡後、時間を見  
 だたぶに脚本に  
 いるという脚本。  
 及大と楽しい時間  
 して、想像をあれ  
 間をくぐるよう  
 る。映画には人  
 行救う行はず  
 全思つので  
 冒険とすれば  
 びますね」  
 (岡崎千晶)  
 り。シネマでは  
 の中で公開。

禁日新聞

自由席

ゼロンソー公演「ピッチドロップ」

困難笑顔で立ち向かう



劇団ゼロンソーの新作「ピッチドロップ」の一場面＝熊本市中央区

佐熊の劇団ゼロンソーの新作「ピッチ  
 ドロップ」が20、21日、熊本市中央区の早  
 川劇場で上演された。熊本地震後の大学  
 の研究室を舞台に、「頭で生きてい  
 る女性」という衝撃的な設定で死生観や  
 愛に切り込んだ。

主人公ホトリは、大学教授の妻。地震  
 で倒れた自宅の下敷きになって体と頭部  
 が切断され、頭だけになったが生き続け  
 ていた。警察はホトリを研究室に陣守が  
 生徒のミヤハラに存在を知られてしま  
 う。混乱するミヤハラをまじ、コーヒ  
 ーを飲みたがるなど明るく振る舞うホト  
 リ。しかし、法律上は死者なのに生きて  
 いることや、研究者の夫が自分を実験対  
 象として見ているのではないかという疑  
 念に頭を悩ます。

人生を深く突きつめたホトリの重さや  
 地震被害の描写で読みどころになる。心  
 裏所に散りばめられた笑いが引き上げ  
 る。常に冗談を飛ばしつづける表情豊  
 かなホトリに突っ込むミヤハラ。笑い  
 とともに互いが心を開いていく様子も捕  
 がれ、どこかほろろする。

電話がとれない、シエヌキターがどき  
 ない、もつ撃する夫の手を産めない。  
 多くの不安を抱えつつも「できることを  
 見つけてるぞ」と笑顔で困難に立ち向か  
 うホトリ。その姿は、復興に向けて歩き  
 続ける市民の心を温かく励ましたに違  
 ない。(岡崎千晶)

夜の漁港でアジ、セイゴ

いびきと輝く赤い電気が  
 引き込まれる情景は夜釣り  
 魚の引き具合で想像しながら  
 日、心地よい初夏の海風に吹  
 かの漁港で夜釣りを楽しんだ

電気ウ

夜釣りの魅力は  
 比へ魚の活感が  
 るので「何と  
 敷釣りが楽しめる  
 明るくつちほの  
 ない漁港の風景が



良型が  
 月にした  
 三月船頭  
 31) 2236  
 いらいず  
 期次第  
 船頭船頭  
 (27) 2800  
 人2軒  
 びん仕掛